

団塊と行政の関わり勉強会

ひので町民大学

「定年後の生きかた講座」

をふりかえる

日の出町の概要

面積: 28.8km²

標高: 170m

人口: 15,858人

世帯数: 6,410世帯



伊豆語 日の出町は、東京の西部に位置し、南にあきる野市、北は青梅市に隣接した緑豊かなあきるの台地にある自然あふれる山里の町です。



ひので町民大学とDNOの出会い



青雲堂(ロンヤス会談)



天心亭(ゴルバチョフ会談)



日の出山荘・書院

◆日の出町教育委員会・社会教育課
生涯学習担当・神田さんからの電話から始まる・・・

「定年を迎え日の出町に帰ってくる方々のパワーを町の活性化に役立ててほしいと考えている。その目的の講座を考えている。講座実施に協力をいただけないだろうか・・・

- ◎DNOの団塊世代の活性化活動に興味を持つ(太陽の家へ電話)
- ◎太陽の家勤務の藤田へ電話、企画案紹介と企画へ協力依頼
- ◎NPO団塊のノーブレス・オブリージュを紹介
- ◎日の出町からDNO(櫻井・開田さん)を訪問 ・ 共同企画の実現となる

日の出町教育委員会

社会教育担当者のねらい その1



今回の講座のターゲット

◎団地に住む団塊世代

◎ベッドタウン化で流入した人

ターゲットの推定人口



(H17年)	男	女
55～59	815	830
60～64	815	704
65～69	497	445
<u>合計</u>	<u>4106人</u>	<u>26%</u>

* 人口比の高い団塊世代の退職者が町に多くなる。少子化も大問題であるがこの年代への対応も重大問題となる。近未来に必ず、行政の対応を問われる。今から手を打っておく必要がある。

日の出町教育委員会

社会教育担当者のねらい その2



◎定年退職者に町の活性化を期待したい。

- ・ 町内に大きな団地(戸建)が2箇所ある。
そのいずれも昭和40年代に開発された。この地区の住民は地元の方ではないので、定年退職後に帰ってきてても地元には溶け込むことが難しいのではないだろうか。この地区の定年退職者が何人ぐらいいるのか町では把握していないが、このような講座を開催することによって、社会貢献したいと考えている方の啓蒙や活動支援できるのではないだろうかと考えている。
- ・ 趣味や教養講座は多数回開催してきた。サークル活動として続いているものもある。今後は地域の福祉(子育てや教育活動など)に貢献していただくための講座も連続して開催したい。

定年後の生きかた講座内容



第1回 アメディア代表取締役 望月 優 氏
ハンディキャップを乗り越え起業した全盲社長の挑戦

第2回 NPO「みんなのおうち」 小林普子 氏
歌舞伎町で暮らす外国籍小中学生の学習支援活動
～専業主婦でもできる～

第3回 料理教室＝職人の技術をマスター・揚げ物を学ぶ
井上学園 多摩調理製菓専門学校

第4回 日の出太陽の家 藤田能成 氏
52歳で営業から福祉へ転職、知的障害者と共に生きる

第5回 団塊のノーブレス・オブリージュ 開田卓二 氏
56歳で早期退職 ネットカフェ起業 サラリーマン退職後の
1500日



募集人員 20名 参加人数12名 (平均7名)
1月26日～2月23日 毎週土曜日10時～12時
場所: 日の出町教育委員会 会議室

定年後の生きかた講座評価＝社会教育課

◎日の出町教育委員会社会教育課の評価

良かった！（収穫）

- ・五里霧中であつたが、開催できてよかった。（まずは、開催ありき）
- ・参加者は少なかったが有意義な講座であつた。
- ・参加者の問題意識が高かつた。（生きかた講座は必要）
- ・DNOの協力を得ることができた。（目的に沿って参加者を誘導）

反省点！（課題）

- ・参加者が少なかった。⇒次回は著名人を起用して宣伝
- ・ネーミングに工夫が必要だった。（対象者限定、意味が広範囲）
- ・講座をどのように活かしていくか定まっていない。（講座ありき）
- ・行政に対する意見拝聴が目的ではないので若干戸惑いがあった。

定年後の生きかた講座評価＝DNO

良かった！

- ・受講者の参画意識が強かった。(受講者参加型方向性が成功)
- ・講師と受講者の双方向交流時間を設けた。(講師4:双方向3で配分)
- ・団塊世代をターゲットとした講座を行政から請け負った(DNOミッション実施)
- ・依頼者(教育委員会)の希望どおりに講座を運営⇒(DNOを高評価)
- ・受講者の希望に対して行政が参加(子育て支援)⇒日の出町福祉課
- ・DNOのミッション(団塊世代の生きかた支援)の正当性を証明

反省点！(課題)

- ・集客に苦戦した⇒集客作戦の実施 (講座ネーミング・客寄せパンダ策)
- ・行政側参加が取り組みに対する批判会に成りがち⇒生涯学習との関連性
- ・限られた時間で受講者のサークル化は無理⇒依頼者希望を実現する方策
- ・ターゲットを男にするか女にするか男女にするか
- ・テーマ設定とターゲットを明確にする⇒受講者の期待に答えやすい

今後の課題

～日の出町の考察～

企画そのものは良かったように思いますが、参加人数がやや少なかったことが気になります。退職後、または老後、どのように生活していこうか、どんな過ごし方があるか、一定に年齢に達するとそれなりに頭を悩ます人も多くなるのではないのでしょうか。しかし、漠然としたものしか見えず、周囲に影響力のある友達やその場所等が不足していて、何をするか明確になっていない人も少なくないと思います。過去の価値観にとらわれず、柔軟な発想のもと、色々な角度から成功談だけでなく失敗談も含めていろいろ討論をする機会も必要かも知れません。

*** 次年度もひので町民大学の一環で今回の様な講座を開催する**

今後の課題

～藤田の考察～

日の出町民大学「退職後の過ごし方」講座5回シリーズは**依頼者の希望に沿って**進められ、おおよそ**希望通りの目的を達成**したと思われる。日の出町の人口に対する55歳以上の年齢構成は高く、近未来にこの対象者が社会問題化することを予測したK氏は、昭和40年代に町に流入した2箇所の団地族を主な対象にしてこの講座を開催した。開催の目的は2点あった。

一つ目は、**地元**に**基盤をもたない定年退職者の持てる力を有効活用**して地域への定着化による活性化をはかりたい。二つめは、町民大学講座終了後、直接的に**地域貢献活動を始めてくれる自主サークルの立ち上げ支援**である。

5回の限られた時間内で依頼者の目的を達成することは出来なかったが、受講者は企画者がねらった通りの対象者であった上に、**次年度に対する取り組みの選択肢が数多く得られた**ようである。手探りの中で開催された講座であったが得たものは大きいとDNOを高評価してくれている。

今後の課題は、講座で刺激を受けた**受講者へ活躍の場提供**である。講座に関しては生涯教育の面から計画されるであろうから、DNOから支援できることはフィールド活動の提案となる。日の出太陽の家で5月に実施される**「花さき祭りボランティア」を最初の活動の場として提案**としたい。コミュニケーションを図りながら緩やかなグループとして存続することを第一とし、できれば仮称「日の出生涯学習市民の会」等の**自主サークル化で地域貢献**に役立てたいと考えている。

花さきまつり参加のおさそい

今年も日の出太陽の家で開催される

「花さきまつり」にボランティア参加しませんか。

期日:5月4日(金) (5月3日=準備 5月4日=本番)

時間:10:00~16:00

宿泊施設あり:若者と学生時代の乗りで、囲炉裏で語りませんか。

* 花さきまつりは「花さきまつり実行委員会」が主催します。

参加される方(地区自治会、ボランティア、NPO、サークル、農家の方々など)が当日の主役です。

* 学生さんや会社員(若者)の参加がおおく、老若男女、老いも若きも一緒になって気軽に参加できて、楽しめるボランティア活動を体験しませんか。

* 会社時代と違った新たな人生の発見と出会うこと間違いなしです。

◎協賛は日の出町観光協会、日の出町教育委員会など